

2005 年度の心理学科入学生の 興味関心と進路希望・知識

水 野 り か*

問題と目的

心理学は、Figure 1 に示すような実験系心理学と臨床系心理学という 2 つの領域に区分され、各々が独自の方法と重要な目的を有する。前者には、ほとんどすべての人間を対象としてその心のメカニズムを科学的に探求する学習・知覚・認知・発達・社会・教育・文化心理学等の数多くの領域があり、後者には、問題を抱えた個人を対象として主に個別の問題解決を図る臨床、相談心理学等がある。

心理学はすべての人間の行動の科学なので、本来、その対象はすべての人間である。そのため、ほとんどの心理学系の学部や学科では、伝統的に、まずこの 2 つの領域の基礎知識を満遍なく教育し、その後、各学生に最も関心のある専門領域を選ばせ、その発展的知識を身につけたり研究活動を行わせるといった教育が行われてきた。しかしながら、昨今の臨床ブームのため、多くの私学の心理学系の学部・学科では、実験系心理学を軽視し、臨床心理学に特化した教育が行われている場合が多い。

この偏りがもたらす弊害は数多くあるが、その本質は Figure 2 に集約できよう。健常者以

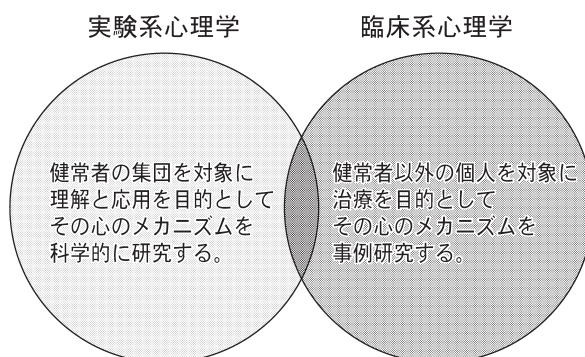


Figure 1. 心理学の領域

* 人文学部教授－認知心理学・認知科学

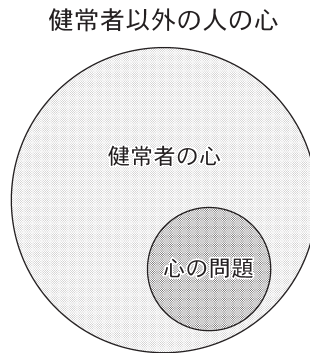


Figure 2. 健常者以外の人の心

外の人の心は、心の問題だけで成り立っているわけではない。心の問題はそのごく 1 部に過ぎず、他は健常者となんら変わらない。したがって彼らを全人格的に理解するためには、実験系心理学の知識は不可欠なのである。実際、スクール・カウンセラーに悩みを相談にくる子供のほとんどは、健常者である。その相談内容は、思春期の子供の抱える人間関係や勉強上の悩みなど、誰もが経験する、ごく一般的な問題がほとんどで、臨床的観点から分析したり治療をしたりする必要があるものはごくわずかである。つまり、彼らの心はほとんどの場合、健常者の心に他ならず、彼らを理解するには、臨床心理学よりもむしろ、思春期の問題を扱う発達心理学、学習上の問題を扱う学習心理学、対人関係やクラスのダイナミクスを扱う社会心理学、学校現場の教育に関わるすべての問題を扱う教育心理学の知識が必要となる場合の方が多い。

ところが、臨床心理学を学びたいという学生のほとんどは、こうした本質を知らないで、臨床心理学だけを学びたい、事例を知りたい、～症、～症の症状や症例を詳しく知りたい、と、まるで精神科の研修医が病院研修の準備をしたいかのごとくに特異な事例の知識だけを求める。心理カウンセラーの対象が精神科医の対象とは異なり、もっと幅広い人間一般であることを知らないか、あるいは、さらに悪いことには、気づかないのである。

中部大学心理学科は、2002 年度に新設された新しい学科であるが、こうした状況を憂えて、昨今の臨床ブームに乗じて臨床心理学に特化するのを避け、幅広い心理学領域の知識を満遍なく教育することを目的としてきた。

指定大学院を修了した学生に受験資格を与える現在の臨床心理士の制度は、臨床心理学偏重の一端を担ってきた。そのため、全国保健・医療・福祉心理職能協会は、この現状を憂えて、「現在の大学院入試制度は必ずしも心理学部・学科を卒業せずに、例えば国文科・英文科・数学科などを卒業しても入学できます。その場合 2 年間の大学院だけでの教育では基礎心理学を習得したとはいえません。心理の仕事として現場で様々な対象者と関わる時には、心理としての心理統計法や学習理論といった科学的な視点も大切になります。そのためにはまず

学部で心理学をしっかりと勉強することが必要となり、その基盤に立った大学院教育でなくてはなりません。他方、資格の現実的な成立要件から考えると、現状では医療関係国家資格の中で、受験資格が大学院卒を受験資格としているものは現在のところありません。そのため医療心理師のみいきなり大学院卒を求めことには無理があります。心理学の基礎を学部でしっかりと教育することが出来れば、卒後研修で資質の向上を図ることが可能と考えられます。」(<http://www.onyx.dti.ne.jp/~psycho/q&a.htm>)と述べ、心理学の基礎知識を満遍なく習得し、かつ、心理士として必要な医療系の科目の単位は実習の単位を修得した4年生の学部卒業者に受験資格を与える「医療心理師」の国家資格化を提案し、現在も活発な議論が展開されている。

高校までは心理学を学ぶ機会がないため、多くの高校生はこうしたことを十分知らない。そのため、臨床ブームの中、中部大学心理学科にも、マスコミやテレビ・ドラマに影響されて臨床心理学を学びたいと考えて入学してきた学生も数多い。

そこで、高校生の情報不足とマスコミによる情報の歪曲が入学者にどのような影響を及ぼしているかを明らかにすべく、水野・西口(2003)は、開設直後の心理学科の新入生の心理学への興味・関心や、進路知識等を問うアンケート調査を実施した。その結果、予想通り、彼らの入学前の興味・関心は犯罪心理学に偏り、心身障害者の療育や福祉などからは離れているなど、マスコミ等に影響された偏ったものであることが見いだされ、十分かつ正確な広報活動、特に、ホームページを利用した正確な広報活動の必要性が強く示唆された。

そしてその後、心理学科のホームページを充実させるなどしてできるだけ正確かつ十分な情報の提供に努めつつ、開設2年目(水野, 2004)、3年目(水野, 2005)にも同様の調査を実施し、縦断比較を行った。その結果、入学生の興味・関心のある領域は、年を追う毎に、1. 心理学全般と記述する者が増加し、2. 未記入の学生が顕著に減り、3. 具体的かつ正確な心理学領域を挙げた者が増え、4. 書かれた心理学領域の種類が大幅に増えてきたことが明らかとなった。

これは、ホームページによる正確な情報提供の成果だと考えられる。また、特筆すべきは、臨床に特化しないことを正確に伝える広報活動を行っても、心理学科を志望する学生が減少したわけではないことである。そこで心理学科では、その後もホームページを逐次改良し、高校生に対する正確な情報提供に努めてきた。

本研究は、2005年度の心理学科入学生の入学直後の興味・関心や進路希望・進路知識を調べることで、こうした情報提供のその後の影響を調べるとともに、1年生の春学期に半期間行われるフレッシュマン・ゼミAで心理学全般の入門教育を行うことにより、入学生の興味・関心の偏りが減少し、進路に関してより正確な知識を得るようになったか否かを、フレッシュマン・ゼミA終了後に改めて調査して明らかにすることを目的とした。

方 法

被調査者 心理学科 1 年生，2005 年度 94 名。

調査日 第 1 回，2005 年 4 月 13 日。第 2 回，2005 年 7 月 13 日。

調査項目 Appendix に示す。1 は入学直後の第 1 回には，入学前に興味・関心のあった心理学領域を，半期終了後の第 2 回には，その時点で最も興味・関心を持った心理学領域を記述させた。それ以降は第 1 回・第 2 回共通で，2. 心理学以外の領域を含めた興味・関心（9 項目），3. 進路希望（14 項目），4. 進路・職業に関する知識（9 項目）について，「1. 全然ない」～「5. 非常にある」等の 5 件法で評定させた。そして最後に，5. 心理学科に対する要望の自由記述欄を設けた。

結果と考察

1. 興味・関心のある心理学領域

自由記述された領域を，重複を許してカウントした。その入学直後とフレッシュマン・ゼミ A の終了直後の結果を Figure 3 に示した。

これを見ると，入学直後の興味・関心は，昨年と同様（水野，2005），臨床心理学に偏っていたが，たった半期のフレッシュマン・ゼミ A で幅広い心理学領域の入門教育を行っただ

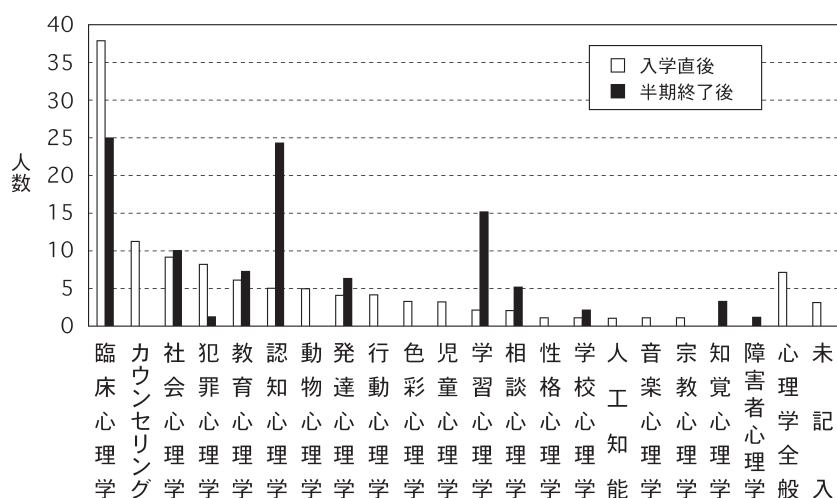


Figure 3. 入学直後と半期終了後の興味・関心のある心理学領域

けで、それが分散したことがわかる。

しかしながら、入学直後の興味・関心に依然として偏りが認められることは、情報提供が未だ不十分であることを示している。また、この調査結果が示すように、この偏りがたった半期の入門講義で分散しうる以上、もう少し効果的な情報提供をすればこの偏りが解消される可能性は多分にある。

継続して行ってきたホームページによる情報提供が十分な成果を上げられない以上、来期は、これまでとは全く異なる、新しい情報提供の手段と内容を考える必要がある。

2. その他の興味・関心のある領域

結果を Figure 4 に示す。これを見るとわかるように、その他の興味・関心のある領域の平均評定値は、フレッシュマン・ゼミ A の前後でほとんど変わっていない。全般的な特徴は、臨床志望が多いわりには、心理実験や教育に対する興味・関心が比較的高いことである。逆に、精神病理や犯罪者のカウンセリングへの興味に比べて、福祉や重度心身障害児への興味が低い。特に、福祉や重度心身障害児への興味・関心は、人工知能、シミュレーション、人間工学といった実験心理学の隣接領域への興味・関心を下回るほどである。この結果は、彼らの臨床心理学への興味・関心が、福祉や障害児といった弱者の心の問題を解決するという最も重要だが難しく、かつ、大変な部分にあるのではなく、テレビ・ドラマで扱われた一時的な犯罪者の動機説明や、ワイドショーや映画でおもしろおかしく取り上げられる二重人格や自閉症への興味といった、浅薄な興味であることを示唆しているのではないかと考えられる。

臨床心理学は福祉や障害者への興味・関心なくして志せるようなものではない。2年、3年と専門的知識を習得するうちに、これらに対する彼らの興味・関心が増すか、あるいは、自分の本当の興味・関心と異なると悟り志望を変更するかは現時点ではわからないが、いず

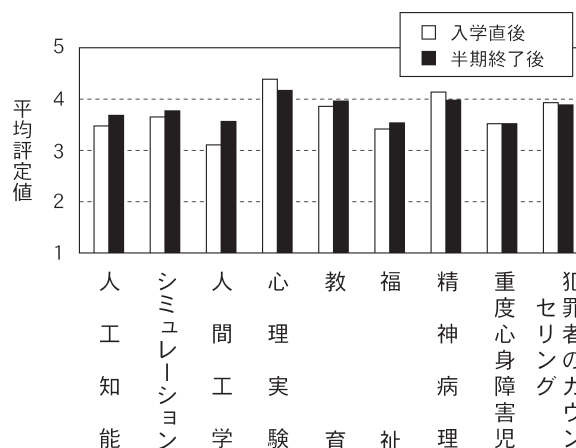


Figure 4. その他の興味・関心のある領域

れにしても、浅薄な興味のまま臨床志望を続ける学生が現れることのないよう、見守ってゆく必要がある。

3. 進路希望

結果を Figure 5 に示す。全般的に半期終了後に評定値はやや高くなり、進路希望が若干定まってきた様子がわかる。その中で目立つのは、大学院で臨床心理士という希望だけがやや低下したのに対し、大学院で学校心理士という希望がやや高まったことであり、これは、中部大学の大学院で学校心理士を取得可能であることが理解されたためと考えられる。ただし、スクール・カウンセラーや相談機関といった、臨床心理士の業務の中でも比較的簡単な相談業務に関連した機関に従事したいという希望が強い反面、福祉施設や精神病院といった、福祉や精神障害者と関わる負担の大きい業務に従事したいという希望は比較的低い。このことは、先述の興味・関心の分析結果とも整合性があり、彼らの臨床心理学への認識の甘さがうかがわれる。

また、著しく狭き門である心理職の公務員希望がスクール・カウンセラーや相談員を上回るほど高く、大半が選択するであろう一般企業への就職希望はほぼ平均値（「どちらとも言えない」）であった。ただしこのような結果になったのは、彼らが楽観的だからではなく、この質問があくまでも希望だったからだと考えるべきであろう。問題は、こうした進路希望が正しい進路知識に基づくものか否かである。よって次にこの点を分析した。

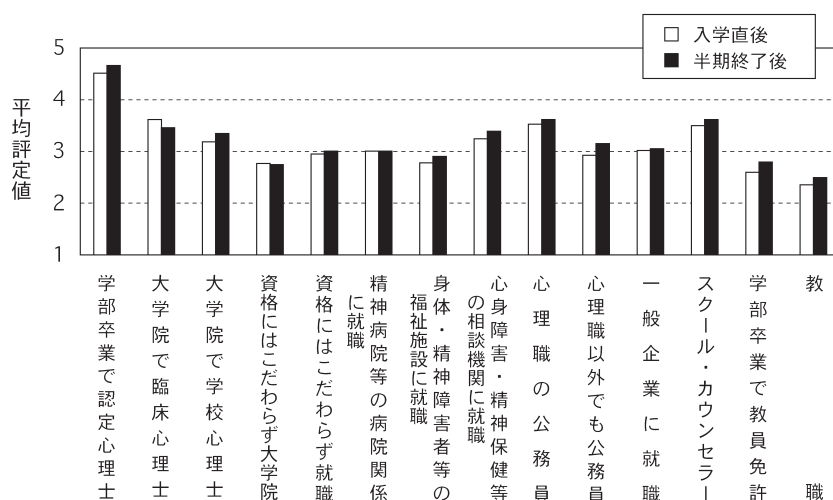


Figure 5. 希望する進路

4. 進路知識

結果を Figure 6 に示す。評定値の平均は 3.0 であるので、これまでの調査結果と同様(水野, 2005), 全般的に進路に関する知識は著しく乏しい。特に, 希望の多かったスクール・カウンセラーの身分や給与, 公務員の心理職の種類, そして, 臨床心理士のカウンセリング以外の業務等についての知識が著しく乏しかったことは, 重大な問題である。

昨年(水野, 2005)も指摘したが, これは, マスコミや進学塾などから得られる情報が主として資格や進路の名称のみで, その内容に関する十分な情報が得られないためだと考えられる。

心理学科は本年度が完成年度であり, はじめての 4 年生の進路がまもなく明らかになり, これがこれからの新入生に以前より正確で豊富な進路情報と進路知識を与えてくれる結果になることが期待されるが, 教員も, こうした現状をふまえ, 様々な進路についてのできるだけ詳しく正確な情報を与える機会を増やすべくさらなる努力をすべきであろう。

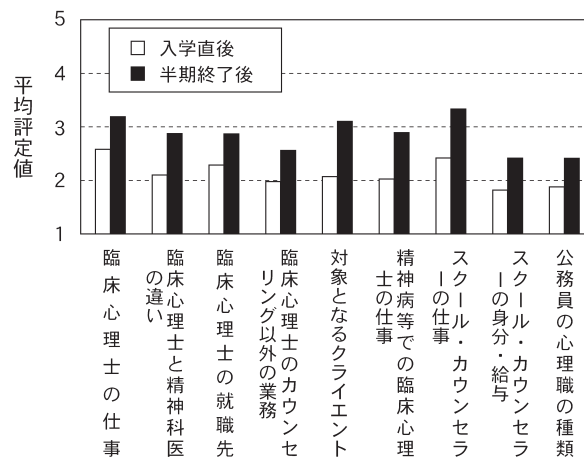


Figure 6. 進路に関する知識

討 論

1. まとめ

本研究では, 2005 年度の心理学科新入生の興味・関心や進路希望・進路知識を入学直後と半期終了後の 2 回調査し, 心理学科に関するホームページでの情報提供の効果を調べるとともに, 新入生のフレッシュマン・ゼミ A における心理学全般の入門教育が入学生の興味・関心, 進路希望, 進路知識にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることを目的とした。

その結果、1. 新入生の興味・関心の分析からは、入学直後は未だ臨床心理学に偏っているが、たった半期の入門講義でそれが分散することが見いだされ、全く新しい情報提供方法を考えるべき段階にあることが示唆され、2. その他の興味・関心のある領域の分析からは、臨床志望が多いわりには、福祉や重度心身障害児への興味・関心が極めて低いことが明らかとなり、彼らの臨床心理学への興味・関心が浅薄な興味である可能性が示され、そして3. 進路希望・進路知識については、心理職の公務員、スクール・カウンセラーなどの希望者は多いものの、その職種、身分・待遇などに関する知識が著しく乏しいことが明らかとなり、進路指導を充実させる必要性が改めて浮き彫りとなった。

2. 今後の課題

今回の調査結果で、臨床心理学に特化せず幅広い心理学の知識を満遍なく教えるという中部大学心理学科の特色とその利点が未だ高校生に十分伝わっていないことが見いだされた。

そこで筆者は、来年度に向けて、「高校生のための心理学」という新たなホームページを開設し、心理学とは何か、実験系心理学と臨床系心理学とは何か、なぜ双方の学習が必要なのか、ということをしてできるだけわかりやすく解説するとともに、中部大学心理学科の健全な教育理念と特色をより正確に高校生に伝えようと考えている。また、心理学の各領域の概要を紹介し、高校生の心理学全般に関する知識を増したいとも考えている。

こうすることで、これまで以上に幅広い興味・関心を持ち、そして、心理学や中部大学心理学科についてのより正確な知識を持つ、より多くの高校生が入学を希望することが期待されるからである。

引用文献

- 水野りか・西口利文 2003 心理学科1年生の進路希望と進路知識のずれ—問題点の把握と進路指導の指針— 中部大学人文学部研究論集, 9, 175-208.
- 水野りか 2004 心理学科1年生の進路希望と進路知識—2002年度と2003年度の入学生と比較— 中部大学人文学部研究論集, 11, 1-14.
- 水野りか 2005 心理学科新入生の興味関心・進路希望・進路知識の縦断比較 中部大学人文学部研究論集, 13, 1-16.
- 全国保健・医療・福祉心理職能協会 2005 そこが知りたい! 医療心理師(仮称)国家資格のQ&A (<http://www.onyx.dti.ne.jp/~psycho/q&a.htm>).

Appendix. 調査項目

フレッシュマン・ゼミ A 受講前用

1. どんな心理学が学びたくて入学を決めましたか？ 名称か内容を簡単に書いてください。

フレッシュマン・ゼミ A 受講後用

1. フレッシュマン/ゼミを受けてみてどの心理学に一番興味を引かれましたか。名称か内容を簡単に書いてください。

以下共通

2. 各領域への興味についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

	全然 ない	あ ま り な い	ど ち ら と も 言 え な い	や や あ る	非 常 に あ る
1) 人工知能に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
2) シミュレーションに興味がありますか……………	1	2	3	4	5
3) 人間工学（座りやすい椅子を作るなど）に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
4) 心理実験に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
5) 教育に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
6) 福祉に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
7) 精神病理に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
8) 重度心身障害児などの療育に関心がありますか……………	1	2	3	4	5
9) 犯罪者のカウンセリングに関心がありますか……………	1	2	3	4	5

3. 希望する進路についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

	考 え て い な い	あ ま り 考 え て い な い	ど ち ら と も 言 え な い	や や 考 え て い る	考 え て い る
1) 学部卒業で取得可能な認定心理士を取得したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
2) 大学院に入って、臨床心理士を目指したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
3) 大学院に入って、学校心理士を目指したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
4) 特に資格にはこだわらず、大学院に入って勉強したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
5) 特に資格にはこだわらず、大学を卒業して就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
6) 精神病院等の病院関係に就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
7) 知的・身体・精神障害者等の福祉施設に就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
8) 心身障害・精神保健等の相談機関に就職したいと考えていますか……………	1	2	3	4	5
9) 心理職の公務員になりたいと考えていますか……………	1	2	3	4	5

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 10) 心理職以外でも公務員になりたいと考えていますか | 1—2—3—4—5 |
| 11) 一般企業に就職したいと考えていますか | 1—2—3—4—5 |
| 12) スクールカウンセラーになりたいと考えていますか | 1—2—3—4—5 |
| 13) 教職の免許を取りたいと考えていますか | 1—2—3—4—5 |
| 14) 教師になりたいと考えていますか | 1—2—3—4—5 |

4. 進路・職業に関する知識についてお聞きます。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

- | | 全然知らない | あまり知らない | どちらとも言えない | 少し知っている | よく知っている |
|--|--------|---------|-----------|---------|-----------|
| 1) 臨床心理士の仕事がどのようなものか具体的に知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 2) 臨床心理士と精神科医の違いを知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 3) 臨床心理士の就職先にはどのようなものがあるかを具体的に知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 4) 臨床心理士のカウンセリング以外の業務に何があるか知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 5) どのようなクライアントが対象となりうるかを知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 6) 精神病院等での臨床心理士の仕事の内容を知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 7) スクールカウンセラーの仕事内容を具体的に知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 8) スクールカウンセラーの身分や給与などを知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |
| 9) 公務員の心理職にはどのようなものがあるか知っていますか..... | | | | | 1—2—3—4—5 |

5. 要望について

その他、心理学科に希望することがあれば、何でも結構ですので記述してください。

これからの心理学科の参考にします。

(2005 年 7 月 19 日 受理)